

黒龍江省の対ロシア林業協力—極東地域を中心に

黒龍江省社会科学院助理研究員 封安全

1. はじめに

近年、黒龍江省の対ロシア木材貿易は大きく発展しており、中国の対ロシア木材輸入総量の3割以上を占めている。単純に数量から見ると、黒龍江省の対ロシア木材貿易は大きく伸びているが、その内容を見ると、まださまざまな問題が存在している。ロシアの木材輸出は主に丸太と粗加工材であり、高付加価値木材製品の輸出はあまりなく、逆に毎年数十億ドルの高付加価値木材製品が輸入されている。このような状況を改善するため、ロシア政府は2007年から丸太輸出関税引き上げ政策を打ち出した。この政策は黒龍江省の対ロシア木材貿易に大きな影響を与えた。本稿では、林業分野における黒龍江省とロシアの協力の問題点、優位性を分析し、協力の対策を検討する。

2. 黒龍江省の対ロシア林業協力状況

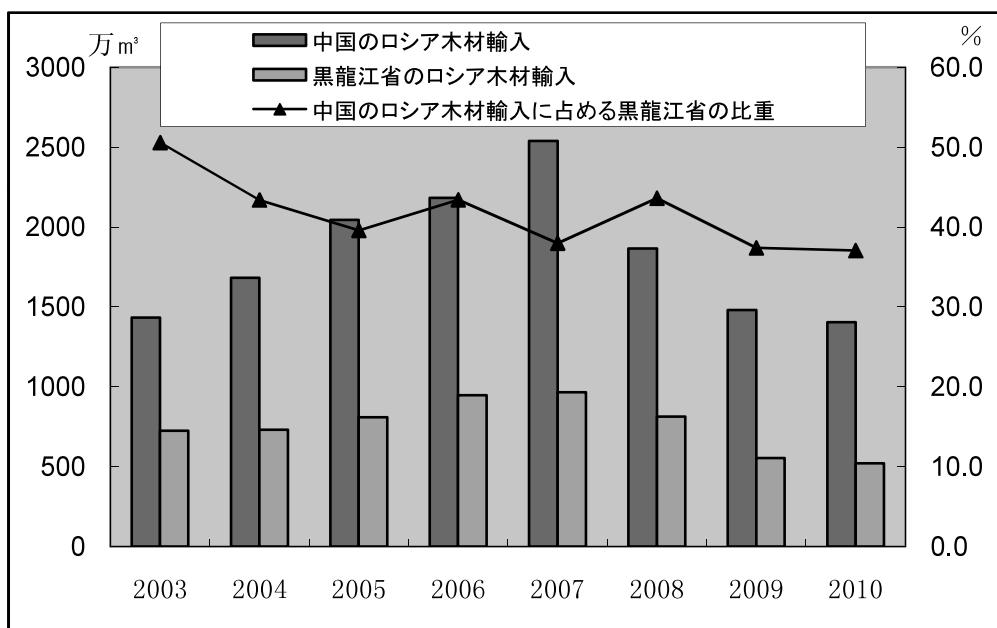
2.1 対ロシア木材貿易現状

木材貿易は黒龍江の対ロシア貿易のなかで重要な部分であり、対ロシア木材貿易のなかでも重要な位置を占めている。しかしながら実際には、黒龍江省の対ロシア木材貿易は片側貿易である。つまり、黒龍江省へのロシアからの輸入が主であり、逆はあまり存在しない。1998年に、「天然森林保護プロジェクト」を実行してから、黒龍江省のロシア産木材輸入は急増しており、2010年までロシア産丸太輸入累計は8,000万 m^3 に達した。2007年までロシア産丸太輸入はずっとプラス成長しており、2007年に史上最高の965万 m^3 を記録した。しかし、2008年以降、ロシア政府の丸太輸出関税引き上げ政策と世界経済危機により、ロシア産丸太輸入は減少しつつある（図1参照）。2008年のロシア産丸太輸入量は814万 m^3 、2007年と比べて151万 m^3 減少した。2009年にはさらに減り、輸入量は554万 m^3 、2008年と比べて260万 m^3 減少し、2010年の輸入量は521万 m^3 、2009年と比べて33万 m^3 減少している。

近年、中国のロシア産丸太輸入は減少したが、ロシア産挽き材輸入は急増している。輸入量は2007年に154万 m^3 、2008年に194万 m^3 、2009年に312万 m^3 、2010年に438万 m^3 であり、それぞれの年の中国輸入総量の23.7%、27.8%、31.6%、29.6%を占めた。黒龍江省のロシア産挽き材輸入も増加の趨勢となっている。

黒龍江省のロシア産木材輸入は主に綏芬河通関ポイントを通過して輸入される。綏芬河は黒龍江省とロシア極東地域の3,000キロあまりの国境線で唯一の鉄道通関ポイントである。綏芬河通関統計によると、ロシアからの丸太輸入量は2008年に638万 m^3 、2009年に404万 m^3 、2010年に364万 m^3 であり、黒龍江省のロシア産丸太輸入総量の7割以上

図1 黒龍江省のロシア産丸太輸入の推移



出所：《中国海関統計年鑑》（2003-2010年）；ハルビン税関ウェブサイト。

を占めている。これらの丸太はすべて極東地域の木材だと推測できる。

2.2 対ロシア林業協力の現状

対ロシア木材貿易を比べると、黒龍江省のロシア林業分野への投資ははるかに立ち遅れている。2006年までに、黒龍江省のロシア林業分野への投資金額は1億4,000万ドルしかなかった。ロシアの丸太輸出関税引き上げ以降、ロシア林業分野への投資は増えていき、2009年にロシア林業分野に進出した黒龍江省木材企業は58社、投資金額は6億8,500万ドルとなり、2010年の投資金額（契約ベース）は10億ドルであった。投資先はおもに極東、ザバイカル地域、投資企業はおもに綏芬河、黒河などの国境地域企業であり、投資分野はおもに森林伐採と木材加工に集中しており、投資規模はあまり大きくない。

黒龍江省のロシア林業分野への直接投資は大きくないが、中口国境地域に整備された木材加工園區には大量の資金が投入された。ロシア材の輸入通過ポイントはおもに綏芬河、満州里であり、これらの地域には木材加工園區が作られた。そのなかで、綏芬河木材加工園區の規模は最も大きく、面積は4.2km²、2007年までの入居企業が500社あり、その加工能力は年間450万m³であった。綏芬河通過ポイントを通過して輸入された丸太の大半は現地で加工された。しかし、2008年以降の丸太輸出関税引き上げは園區内の企業に悪影響を与え、多くの中小企業が生産を停止し、あるいは倒産した。

3. 森林分野における黒龍江省とロシアの協力の問題点と優位性

3.1 存在する問題

(1) 優遇政策の弱体化

黒龍江省のロシア木材輸入は主に国境小額貿易という方式で行われている。国境小額貿易の輸入関税と輸入付加価値税を半額にする政策は、WTOの規定に違反するため、2003年から国境小額貿易政策が適用される商品種類は徐々に減少し、2008年11月までに国境小額貿易優遇政策は全て取り消された（国境貿易政策について詳しくは封（2008）参照）。国境貿易政策の弱体化により、黒龍江省を通じて対ロシア木材貿易に従事する外省企業はだんだん少なくなり、黒龍江省のロシア木材貿易の地理的な優位性も弱まる。

(2) ロシア丸太輸出関税の調整

ロシアは森林が豊富であるにもかかわらず、木材産業は発達しておらず、輸出は主に丸太および粗加工の製材である。高付加価値の木材製品の輸出は少なく、したがってそ

れらについては輸入が輸出を上回っている。そのようななかで、近年、ロシア政府は国内の木材加工業を振興し、高付加価値製品の輸出を奨励し、丸太輸出を制御するため、一連の措置を打ち出した。とりわけ、2007年7月1日に開始された丸太の輸出関税の大幅な引き上げは大きな注目を集めている。引上げは、3段階で実施されている。第1段階では輸出価格の20%、あるいは1m³当たり10ユーロであり、第2段階では輸出価格の25%、あるいは1m³当たり15ユーロであり、第3段階では輸出価格の80%、あるいは1m³当たり50ユーロにまで引き上げられるとされている。現在、第2段階の政策が実行されている（ロシア木材輸出関税について詳しくは封（2009）参照）。

(3) 交通インフラ施設の立ち遅れ

極東地域の森林開発は、主に鉄道沿線、道路沿線、都市周辺などの交通の便利な地域で行われてきた。しかし、過去100年間、交通の便利な地域の森林はほとんど開発されてしまっている。さらなる開発のために、伐採条件が悪い、より奥地での伐採が必要となってきた。

面積が621万km²もある極東地域に、主要な鉄道は2本、すなわちシベリア鉄道とバム鉄道しかない。極東地域の鉄道の密度は非常に低い。1万km²当たり13kmしかなく、ロシア全国平均値の3分の1に過ぎない。カムチャツカ地方、マガダン州、サハ共和国には鉄道がほとんどない。道路についても、極東地域の道路密度は1万km²当たり60kmであり、ロシア全国平均値の6分の1である。交通インフラの弱さは極東森林開発の大きな障害となっている。

(4) 競争の激しさ

林業分野における黒龍江省とロシアの協力については海外と国内からの挑戦がある。海外の挑戦は日本、韓国からである。日本とロシアは50年代から極東森林開発を巡り、いくつかのプロジェクトに調印した。ロシアは日本にとって最も重要な木材輸入先である。ロシアの木材輸出関税の引き上げおよび2008年の世界経済危機により、ロシア産木材輸入は激減したが、震災復興により、木材の需要は増えるため、日本の対ロシア協力は強化されると考えられる。また、近年、山東省、江蘇省の対ロシア林業投資は年々増えており、国内の他の省と黒龍江省との競争が日々激しくなっている。

3.2 存在する優位性

黒龍江省の対ロシア林業協力においてさまざまな困難があるにもかかわらず、黒龍江省の対ロシア極東の協力ではいくつかの優位性がある。

表1 ロシア極東の森林資源の分布

(単位 万ha、100万m³)

	1993			2008		
	森林面積	被覆率(%)	木材蓄積	森林面積	被覆率(%)	木材蓄積
極東	24,815	45.3	20,450	29,627	48.0	20,947
サハ共和国	13,426	47.4	9,229	15,803	51.3	9,161
沿海地方	1,123	75.4	1,769	1,267	76.9	1,916
ハバロフスク地方	4,359	61.4	4,994	5,239	66.5	5,210
アムール州	2,185	62.3	1,954	2,348	64.9	2,050
カムチャツカ州	889	56.6	1,194	1,972	42.5	1,213
マガダン州	1,684	38.3	423	1,756	38.0	481
サハリン州	485	64.7	623	578	66.4	633
ユダヤ自治州	155	44.2	174	166	45.7	197

出所：ロシア連邦統計局「ロシアの地方：社会経済指標2009」

(1)資源優位性

ロシア極東の森林面積は3億haであり、ロシア森林総面積の37.1%を占める。森林被覆率は48.0%であり、木材蓄積が209億m³、ロシア木材蓄積総量の24.8%を占めている。極東の森林は主にサハ共和国(50.1%)、ハバロフスク地方(18.5%)、アムール州(8.5%)、マガダン州(6.8%)、沿海地方(4.5%)に分布している。表1から分かるように、この20年間、森林面積、木材蓄積量ともに増加しており、森林面積が4,812万ha、木材蓄積量が5億m³増えている。森林資源は石油、石炭などの資源と違って、再生可能な資源である。合理的に利用すれば、森林資源は取っても使っても尽きることはない。

(2)市場優位性

極東の木材製品の大部分は外国に輸出されている。すなわち、木材の極東市場と国際市場との関係は非常に緊密である。中国は極東木材の主要輸出先であり、中国の木材需要はロシア木材工業の発展に大きな影響を与えている。中国の経済発展に伴い、木材需給ギャップはますます大きくなる。中国の関係機関の予測によると、2020年までに中国の木材需給ギャップは1～1.5億m³となる。また、黒龍江省と極東地域は3,000kmあまりの国境で隣接しており、25の通関ポイントがあり、地理的な優位性が非常に明瞭である。

(3)両国政府の協力重視

近年、中ロ中央政府は両国の森林分野の協力を重視している。中国商務部の情報によると、商務部、国家林業局、国家林業局調査計画設計院の責任者からなる中国林業計画代表団は2007年12月上旬、ロシアのアムール州、ユダヤ自治州を訪問した。訪問の目的はロシア極東地域における「中ロ森林資源開発利用協力計画」の第2期プロジェクトの実

行について、ロシア側の地方政府と協議することであった。同年11月に調印された第1期プロジェクトとしての「中ロトムスク州森林資源開発利用総合計画」は、ロシア側に高く評価されている。ズプコフ首相(当時)は、トムスク州(西シベリア)における第1期プロジェクトの経験と協力モデルをロシア国内に広げ、中国の木材加工の技術と能力を活用した森林資源の合理的利用を行うべきとの考えを示している。また、2009年に両国政府が調印した「中国東北地域とロシア極東・東シベリア地域の協力計画要綱(2009～2018年)」のなかで、極東林業開発に関するプロジェクトが14件ある。その内訳は、ハバロフスク地方が7件、サハリン州が2件、アムール州、ユダヤ自治州、カムチャツカ州、マガダン州が各1件である。現在、これらのプロジェクトは完全には実行されていないが、これが今後の中ロ協力の基礎となると期待されている。

4. 対ロシア林業協力の対策

金融危機の影響により、ロシア政府は丸太の輸出関税の引き上げの第3段階の実行時期を1年ずつ、3年連続して延長した。現時点で丸太輸出制限による木材加工業の振興効果は出ていないが、長期的に見ると、ロシア政府が丸太輸出を制限しつつ、国内木材工業を振興するという目標は変わらないと考えられる。一方、中国もロシアに替わる木材供給源を短期間に見出すことは難しい。経済の安定発展のため、木材輸出国としてのロシアは、安定的、長期的で、支払い能力を有する市場を必要とし、同様に、木材輸入国としての中国は、安定的、長期的で、供給能力を有する供給元を必要とする。木材分野における両国間の協力は双方の利益になる。

現在、林業分野における黒龍江省とロシアの協力は不十分な水準にとどまっている。貿易面でロシアから丸太や挽き材を輸入しているが、ロシア現地での協力の面では、進出した森林企業はおもに森林伐採と簡単な加工作業に従事しているだけである。このような状況を打開するため、我々は真剣に考えなければならない。今後、黒龍江省の対ロシア林業協力は次のようなことをすべきだと考える。

(1)互恵性に基づいて対ロシアの林業協力を強化する。

木材生産状況から見ると、ロシアの木材工業の発展は非常にアンバランスである。丸太と挽き材の生産は主に北西連邦管区とシベリア連邦管区に集中している。合板生産は主に中央連邦管区、北西連邦管区、沿ヴォルガ連邦管区に集中している。パルプは北西連邦管区、シベリア連邦管区に集中している。両連邦管区の生産量はロシアパルプ生産総量の9割以上を占めている。一方、ロシア森林総面積の3分の1を占め、木材蓄積総量の4分の1を占めている極東地域では合板とパルプは殆ど生産されてない。表2からわかるように、極東地域の森林産業はロシアにおいて最も立ち遅れている。遅れている故に、発展の余地はまだ大きい。

近年のロシア木材産業の発展状況、特に極東地域木材産業の状況から分かるように、ロシア森林産業を振興するためには、大量の資金、人力、資機材が必要である。しかし、ロシア一国の力でロシア森林産業の振興はなかなか難しく、外資導入と国際協力が必要である。これは黒龍江省とロシアの林業協力を進める契機にもなっている。今後、黒龍江省の対ロシア林業協力は貿易と投資ともに質を向上させることが必要となる。自分の利益を保障する同時に、相手の利益を考慮しなければならない。つまり、互恵性に基づいて対ロシアの林業協力を強化させることが重要である。

(2)新たな協力モデル「木材との融資交換」を検討し提案する。

理論的に言えば、中ロ林業協力の相互補完性は非常に強く、協力の基礎も十分整っている。なぜ両国の林業協力は立ち遅れているのだろうか。2009年に中ロ両国の「石油と融資の交換」協定が成立したが、これは長年進まなかったエネルギー協力の問題を解決した。この協定はエネルギー分野におけるよいケースとなった。

長期的に見ると、中国の木材消費は増加する趨勢であり、ロシアの森林開発、特に極東地域の森林開発は莫大な資金が必要である。このような状況で、黒龍江省の企業は「石油と融資の交換」のケースに倣い、ロシア側に資金を貸与して、長期的にロシアの木材、あるいはロシアの森林伐採権を得る。

(3)黒龍省森林工業の優勢を利用して対ロシア林業協力を強化する。

極東地域の森林資源は非常に豊富であり、現在、この地域の齢級別構成はだまかに若齢林が5%、中齢林が25%、成熟移行林が25%、成熟林・過熟林が45%である(図2参照)。このような齢級別構成は持続的な森林開発が可能である。極東地域の森林開発は、理論上では年間許容伐採量が9,000万 m^3 であり、実際の伐採量はその6分の1に満たないのが実情であり、まだまだ発展の余地は大きい。また、極東地域では毎年、1,100~3,800件の森林火災が発生しており、被害面積は40万~160万haである。これらの被害森林は適時に伐採されないと、健康林の成長に影響を与える。残念ながら、極東地域では、これらの被害材を伐採する能力を持たない。極東の財力、人力の不足は極東地域の林業発展を制限している。

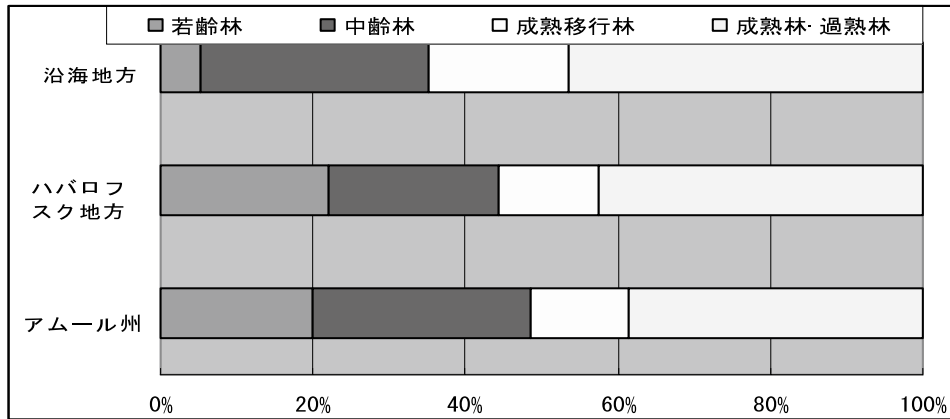
一方、黒龍江省は中国最大の林業省の1つであり、中国

表2 ロシア木材製品の生産分布

	2008 (%)				2009 (%)			
	丸太	挽き材	合板	パルプ	丸太	挽き材	合板	パルプ
総産量 (万 m^3 、万トン)	10,820	2,160	259	591	9,708	1,899	213	540
中央連邦管区	7.8	9.1	21.3	na	7.1	6.5	21.1	na
北西連邦管区	31.7	28	36	63.2	31.8	29.3	34.1	62.7
南部連邦管区	0.3	1.1	0.4	0.5	0.4	1.1	0.3	0.7
沿ヴォルガ連邦管区	12	16	25.9	3.8	12.3	15.1	29.1	3.8
ウラル連邦管区	5.2	7.2	9	0.6	5.3	7.8	8.4	0.7
シベリア連邦管区	30.8	33.3	7.4	31.9	31.7	33.5	7	32.1
極東連邦管区	12.1	5.3	na	na	11.4	6.7	na	na

出所：ロシア連邦統計局「ロシアの地方：社会経済指標2010」

図2 極東沿海地方、ハバロフスク地方、アムール州の森林年齢別の構成



注：年齢とは樹木を年齢によって分けたものである。一般的に、木の成長プロセスは若齢林、中齢林、成熟移行林、成熟林、過熟林の5つの段階に分けられる。ロシアにおいて年齢の幅は樹種ごとに定められており、50～70年で成熟に達する樹種は10年、80～140年の樹種は20年、それ以上の樹種は30年とされている。
 出所：アムール州森林計画（2009）；2009・2018年の沿海地方森林計画（2009）；ハバロフスク地方森林計画（2010）

の木材生産基地である。黒龍江省の森林工業は比較的発達した水準にあり、1998年の「天然林保護プロジェクト」実行以後、多くの技術労働者と設備は遊休状態にある。もし、黒龍江省森林工業の技術、設備、人力の優位性とロシアの資源の優位性を合理的に利用すれば、黒龍江省の対極東地域の森林協力は大きく発展できる。

黒龍江省の森林工業の技術、設備、人力などをロシアの豊富な資源の開発に合理的に利用すれば、黒龍江省の対極東地域の森林協力を大きく促進できることになる。つまり、黒龍江省はロシアに森林開発、木材加工などの機械設備を輸出し、あるいは技術労働者を派遣して、見返りとして、極東地域から優れた木材を輸入することが可能となり、中ロ両国双方の利益にかなうものである。

(4)交通インフラ建設を整備する

黒龍江省とロシアの国境線には、15箇所に通関ポイントがあるが、鉄道の通関ポイントは綏芬河1箇所しかない。撫遠とハバロフスクの直線距離は35kmしかないが、現状では、ハバロフスク地方の対黒龍江省木材輸出は700kmも遠いウスリースク～綏芬河を経由して輸出している。この

ため、輸送コストは増加し、輸送時間も長くなっている。黒河の道路橋と同江の鉄道橋の計画は数年前に策定済みであるが、未だに橋梁の建設は開始されてない。そのため、両国政府はできるだけ早く橋、道路などのインフラ建設を着実に遂行すべきである。これは両国の経済貿易協力を促進するためには不可欠なことである。

参考文献

封安全（2009）「ロシアの木材輸出の新展開－対中国貿易を中心に」『スラヴ研究』56号，pp.179-196.
 Лесной план Амурской области（2009）[http://amurleshoz.ru/lesnoy_plan.html]
 Лесохозяйственный регламент арсеньевского лесничества Хабаровского края（2009）[http://lesportal.biz/obshchaya-informatsiya-o-sostoyanii-i-zapasakh-lesnykh-resursov]
 Лесной план Приморского края на 2009-2018 гг.（2010）[http://www.primorsky.ru/content/?s=2704]

Heilongjiang Province - Russian Forestry Cooperation in the Far East

FENG, Anquan

Heilongjiang Provincial Academy of Social Sciences

Summary

The timber trade between Heilongjiang Province and Russia has developed rapidly in recent years, accounting for more than 1/3 of the total amount of Sino-Russian timber trade. In respect of trade volume, Heilongjiang-Russian timber trade has developed rapidly; however, there are still a lot of problems in respect of the quality of trade. Russia mainly exports logs and rough sawn lumber, while high value-added products only account for a small number. In fact, high value-added wood products worth billions of dollar are imported annually in Russia. In order to change this situation, Russia has continuously increased the log export tariffs since the year 2007, which greatly affects Heilongjiang-Russian timber trade and cooperation. From the angle of geographic advantages between Heilongjiang Province and Russia, this paper will discuss the advantages and existing problems of forestry cooperation between Heilongjiang Province and Russia, and also give proposals for the cooperation.